

1-(2) 持続可能な地域公共交通とするための取組み

～自動運転走行実験の結果と学校モビリティ・マネジメントについて～

1 自動運転走行実験の結果について

先月行った**自動運転走行実験**について、試乗者などの**アンケート結果**を報告する。

この走行実験は、小型自動運転車を金公園の敷地内で時速5キロ程度で走行。

アンケートの回収数は、自動運転車に実際乗られた方や現地で見学された方を含めた**計167**。

■実験の目的

自動運転の取組みは、深刻な運転手不足や安全性の向上など、公共交通を取り巻く課題の解決策のひとつとして実施。

⇒ 今回は、**市民に自動運転を見て、乗って、体験してもらい、**

次年度以降に取組みをさらにステップアップするため、**感想や意見を確認**した。

■結果

・ **自動運転車両による公共交通の利用意向**が、試乗後に**約1.3倍**に増加

・ 市民が**自動運転技術を理解**するためには、**走行実験が最も有効**であるとの意見が**約9割**
そのほかにも、

「もっとたくさんの走行実験をしてほしい。実際の道路で自動運転を体験したい。」や
「高齢者のために早く利用できることを希望します。」との要望があった。

このように、

走行実験を通して、公共交通への**自動運転車両の導入の期待**が大きいことがわかった。

来年度以降、**公道**での自動運転車両の**実装**に向け、引き続き検討を進める。

参考 別添資料



2 学校モビリティ・マネジメントについて

本市では、自動運転を含め、バス路線再編、BRT、コミュニティバスの導入など、積極的に交通政策を推進している。

ただし、これら供給者側の取組みだけでは限界がある。

⇒ 需要者側である地域の住民、学校、企業等の公共交通の利用を促進することが重要。

この主要な取組みが、モビリティ・マネジメント。

これは、過度に自動車に依存する状態から、

公共交通や徒歩など多様な交通手段を適度に利用する状態へと

自発的に転換していくことを促す取り組みのこと

本市では、

- ・平成27年11月に、地域公共交通の基本理念と市・市民・事業者・公共交通事業者の責務・役割を定めた「岐阜市みんなで創り守り育てる地域交通条例」を施行する一方で、平成26年から、学校モビリティ・マネジメントを継続的に実施。

- ・毎年4月に全小中学校へ呼びかけ、希望された学校に、市の職員が、交通事業者（岐阜バス）とともに赴き、公共交通の大切さを教える授業を実施。

→ 小学校では、実際のバス車両を校庭に走らせる「バスの乗り方教室」も実施。



- ・平成29年には、小学校低学年向け、高学年、中学生向けの教材も作成し、活用している。
- ・将来の利用者である子供たちに、自分たちが利用することで公共交通が維持されるといった認識を持ってもらい、長い目で公共交通の利用促進につなげていく。



- ・これまで、中学校で5回、小学校で22回行い、約4,000人の児童らが受講。

（今年度実施校 鷺山小、島小、長良西小、柳津小、市橋小、境川中（本日午後））

児童からは、「車は便利だけど、車いすも乗れるバスの方がもっと便利」とか、
「バスに乗るのが楽しみになった」という声が聞かれ、
先生からも、「観光バスしか乗ったことがない子供たちに、公共交通の大切さを
先生以外から学ぶことに意義を感じた」といった感想をいただいている。

今後も、学校モビリティ・マネジメントを続け、
公共交通の利用を促進する取り組みを進めていく。

○なお、**本日午後、境川中学校**にて、**1年生9クラス290名**に授業を行う。

総合学習の時間において、地域を支える公共交通として、
市民が手づくりで運行している**コミュニティバス**の**意義**や**運営の仕組み**などを学んだり、
地域で取り組む大切さを考えてもらう。

⇒ 今後も引き続き、**供給者側と需要者側、相互の取組みを両輪**として、
未来を見据えた交通政策を推進していく。